



第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会  
滋賀県開催準備委員会

子ども・若者参画特別委員会  
(ジュニア・ユースチーム)

# 第6期生 活動報告書

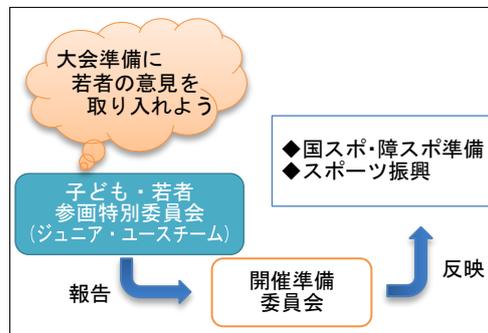
(活動期間:令和元年8月18日～令和2年3月22日)



## はじめに(ジュニア・ユースチームについて)

### ◎設置の趣旨

令和6年(2024年)に第79回国民スポーツ大会(国スポ)および第24回全国障害者スポーツ大会(障スポ)を本県で開催するにあたり、子どもや若者の視点や発想を両大会の開催準備や県のスポーツ推進に反映させることを目的に、開催準備委員会のもとに「子ども・若者参画特別委員会(通称:ジュニア・ユースチーム)」を設置しました。この活動は国スポ・障スポを準備する他県にはない滋賀オリジナルの取組です。



滋賀オリジナルの取組

### ◎活動内容

国スポ・障スポの開催準備やスポーツ推進などの中からテーマを設定し、必要な調査・体験活動を行って、意見をまとめ、開催準備委員会に報告します。

今期は、『マイスポーツを探せ!!』をテーマに、令和6年(2024年)に国スポ・障スポの開催を控える中、年齢、性別、障害の有無に関係なく、誰もが気軽に楽しめるスポーツを体験し、県民がスポーツに関わるきっかけや生涯にわたりスポーツに関わることができる方法について検討することとしました。主な内容としては、eスポーツ、スポーツウェルネス吹矢、ポッチャ、フライングディスクの競技体験や関係者への取材活動を行いました。また、『わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ内定記念イベント』でスポーツ体験会の運営を行いました。これらの体験をもとに、「体験会運営の心得」、「マイスポーツを見つける6カ条」についてメンバーで検討し、意見をまとめました。

### ◎委員の募集

県内に居住、通学・通勤する小学5年生から大学生世代の子ども・若者を募集し、今年度は小学5年生から大学4年生までの36名が活動しました。(p. 15の第6期生メンバー参照)

	小学生	中学生	高校生	大学生	計
男子	7人	4人	0人	1人	12人
女子	10人	7人	4人	3人	24人
計	17人	11人	4人	4人	36人



## 第1回 結団式・仲間づくり活動・講話

(令和元年8月18日)

会場：びわこ成蹊スポーツ大学(大津市)

### ◎結団式

結団式では、滋賀県開催準備委員会中嶋事務局長から「2024年開催の国スポ・障スポ大会では、アスリートはもちろん、応援する人等たくさんの方が滋賀県に来られます。どうしたら滋賀県をアピールできるか、スポーツに親しめるか、滋賀県が明るくなるかをしっかりまとめてください。」と激励があり、その後「子ども・若者参画特別委員会委員」の委嘱状が授与されました。



結団式 委嘱状の授与

### ◎仲間づくり活動

結団式の後には、交流を深めるための仲間づくり活動を行いました。これは1人では解決できない課題を、お互いが支え合ったり、アイデアを出し合ったりしながら協力して克服する活動で、「絶対無理!」と思われた課題も、みんなが協力してクリアし、楽しく活動できました。



仲間づくり活動

### ◎グループワーク「質問事項の検討、整理」

グループワークでは、事前に考えてきた競技関係者への質問事項をまとめました。一人ひとりが積極的に発言し、活発な意見交換が行われました。メンバーそれぞれの発言をもとに、①競技をはじめたきっかけ、②競技の魅力、③スポーツを始める人に伝えたいこと、④スポーツをする上で大切に考えていること、⑤スポーツへの考え方、⑥その他の項目に質問事項を整理しました。



質問事項の検討

## 第2回 eスポーツ体験と競技関係者への取材活動

(令和元年9月7日)

会場：滋賀県庁(大津市)

### ◎eスポーツに関する講義

株式会社セガゲームスeスポーツ推進プロデューサーの西山泰弘さんより、「eスポーツとは」をテーマに、eスポーツの現状や、これからeスポーツがどのように発展してほしいかについて講演いただきました。その後、ぷよぷよプロプレイヤーのKamestryさんから「プロプレイヤーから」の視点で「eスポーツとの出会い」、「eスポーツの魅力」



西山さんによる講義



Kamestryさんによる講義

と題して、講演をいただきました。

西山さんからは、「年齢・性別・障害・国籍に関係なく多くの人々が親しめるものであること」、「海外がeスポーツの先進国であり日本のeスポーツはこれから発展していく可能性があること」、「見ることで楽しめる」といったものであることを教えていただきました。Kamestryさんからは、「今のゲームはオンラインで世界中の人とコミュニケーションをとることができ、多くのつながりを持つことができること」や、「個性をいかし活躍できること」といったものであることを教えていただきました。

### ◎eスポーツの競技体験と関係者への取材

最初に、Kamestryさんによるパフォーマンスの披露がありました。ぷよぷよの16連鎖や一気消しの大技を見ることができ、メンバーからは、拍手や大きな歓声があがっていました。プロのすごさを目の当たりにしました。対戦型パズルゲーム「ぷよぷよ」について、Kamestryさんから操作方法やポイントを教えた後、メンバー全員で体験しました。また、メンバー全員による、トーナメント大会を開催し、大型スクリーンに対戦の様子が映し出されると、競技者だけでなく、見ている側も、対戦の様子が吸い込まれていきました。トーナメントの最後には、エキシビジョンマッチとして、優勝者とKamestryさんとの対戦もあり、eスポーツの魅力について実体験できました。



競技体験の様子



取材活動の様子

その後、2つのグループに分かれて取材活動を行いました。主な取材内容として①きっかけ、②競技の魅力、③伝えたいこと、④大切に思っていること、⑤スポーツへの考え方などに関することをそれぞれ聴き取りました。講師のみなさんは、メンバーからの数多くの質問の一つひとつ丁寧に答えてくださいました。メンバーも聞き逃さないように一生懸命メモを取っていました。

## 第3回 パラスポーツの競技体験および関係者への取材（令和元年9月23日）

会場：瀬田公園体育館（大津市）

### ◎スポーツウエルネス吹矢の競技体験

滋賀県スポーツウエルネス吹矢協会から12名の方を講師に迎え、まず、基本動作をご指導いただきました。メンバーは、美しい姿勢で一つひとつの動作を確認しながら行いました。この競技は、「腹式呼吸」と「集中力」が重要で、呼吸法や姿勢を正しくすることにより健康になるそうです。私たちは、5～10m先にある円形の的めがけて矢を吹きました。実際の大会では、1ラウンド5本の矢を吹き、的を射た合計得点で競います。講師の方はメンバー一人ひとりに丁寧に教えてくださり、見事真ん中に命中しているメンバーもいました。



競技体験の様子

## ◎ボッチャの競技体験

滋賀県ボッチャリーグから2名の方を講師に迎え、まず、ルールやゲームの説明、試合の進行方法などを教えていただきました。『ボッチャ』は、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げる、転がす、他のボールに当てるなどして、いかに近づけるかを競う競技です。また、障害によりボールを投げるができなくても、ボールを転がす台（ランプ）を使えば誰でも参加できます。ゲームでは、「戦略」が重要になってきます。メンバーたちはそれぞれの戦略を考えながらゲームに熱中していました。また、講師の方と対戦しているグループもありました。最後には、メンバーが自分たちで審判をしながら進めていくことができるようになりました。



競技体験の様子

## ◎フライングディスクの競技体験

滋賀県障害者フライングディスク協会から3名の方を講師に迎え、競技の説明やディスクの投げ方についてご指導いただきました。フライングディスクには、「アキュラシー」という円形の的を通過した回数を競う種目や「ディスタンス」という飛距離を競う種目があり、ディスクに強い回転をかけまっすぐ飛ばすことがポイントです。メンバーは、まっすぐ飛ばすことができず苦戦していました。メンバーの中には、昼休みも含め、ディスクを積極的に投げているメンバーもいました。講師の方は「吸収が早い」ととても驚いておられました。体験した3つの競技はどれも内容がわかりやすく、メンバーは、すぐにコツをつかんで上達していました。



競技体験の様子

## ◎競技関係者への取材

取材活動は、体験した3つの競技にメンバーがそれぞれ分かれて取材活動を行いました。主な取材内容として、①きっかけ、②競技の魅力、③競技に対する思いなどをそれぞれ聴き取りました。

スポーツウエルネス吹矢では、ケガで呼吸がしづらかったが競技を続けることで呼吸がよくなる効果を感じていること、若い頃に他の競技をしていたが、年齢を重ねてもできる吹矢に出会えたことなどを教えていただきました。

ボッチャでは、これまでスポーツに参加することができなかった人が参加できる競技であること、用具を工夫すれば重度の障害のある方も参加できること、一見簡単そうに見えて実は奥が深いスポーツであることなどを教えていただきました。

フライングディスクでは、障害者用に作られた競技で障害の有無に関係なく誰でもできること、特別支援学校の体育の授業で誰もがができるスポーツとして取り入れていたことな



取材活動の様子

などを聴き取りました。講師のみなさんは、メンバーからの数多くの質問に一つひとつ丁寧に答えてくださいました。どのグループも和やかな雰囲気取材活動に取り組んでいました。余談ですが、この活動の様子を、テレビ局の方に取材いただきました。



取材活動の様子



逆取材の様子

#### 第4回 レクリエーションスポーツの競技体験および関係者への取材 (令和元年9月23日)

台風19号接近による影響のため中止になりました。

#### 第5回 ユニカールの競技体験および体験会運営の話し合いと準備 (令和元年10月26日)

会場：滋賀県庁(大津市)

##### ◎ユニカールの競技体験

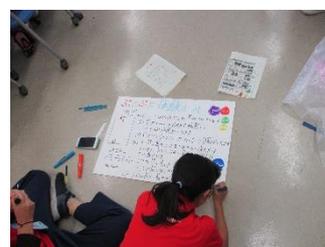
滋賀県ユニカール協会から用具をお借りし、事務局員から説明を受けました。ユニカールは、床の上で行うカーリングというもので、約3kgのストーンを8～9m先あるサークルの中心に、青・黄と交互に投げ、より多くのストーンを近づけることを競う競技です。ストーンを投げるときは、ストーンの重さを利用し振り子のように大きく腕を振ることがポイントで、ストーンを床に置くようにするとうまく滑らせることができました。この競技は、ボッチャと同様に「戦略」が重要になってきます。ストーンを狙って置くのか、相手のストーンをはじき出すのか等、考えながら行うところに魅力がありました。



競技体験の様子

##### ◎グループワーク「体験会に向けた話し合い」

話し合い活動では、「体験会で多くの人に『やってみよう』と思ってもらうために必要なことは何か？」のテーマで、話し合いを進めていきました。グループごとの話し合いにより色々なキーワードが出てきました。話し合いの結果、キーワードの中から、「笑顔」、「説明・案内」、「広告」の3つを体験会当日にメンバー全員で共通して頑張ることを決めました。



準備物作成の様子

## ◎体験会の準備

体験会で実施するeスポーツ、スポーツウエルネス吹矢、ポッチャ、ユニカールの競技ごとに分かれ、どのように体験会を運営していくか等について、話し合いました。みんなが同じように説明できるよう、「競技の魅力」について共通理解した後、当日の「役割分担」を行い、体験会に向けてチラシやポスター、パネル等の準備物の作成をしました。チラシやパネルには、各競技の正式ルールや体験用の簡単なルール、競技の魅力、うまくできるポイントなどをできるだけわかりやすくまとめました。

## 第6回 スポーツ体験会の運営体験活動（令和元年11月16日）

会場：イオンモール草津（草津市）

### ◎体験会の運営体験

「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ内定記念イベント」において、これまで、私たちが体験してきた「eスポーツ」、「スポーツウエルネス吹矢」、「ポッチャ」、「ユニカール」の競技体験会の運営体験活動を行いました。

メンバーからは、はじめはうまく進めることができなかったけど、時間が経つにつれ要領よく進めることができるようになった。役割分担を工夫してできた。小さな子どもたちや年配の方に対する説明が難しかった。誰でも気軽にできるルールやブース設営の工夫が必要と思ったなどの感想がありました。

体験会を通して、メンバーが共通してがんばる目標であった「笑顔」については、小さい子の目線に合わせ話しかけたり、拍手をしたりと体験者に楽しんでもらおうとする雰囲気を作ることができていたと思います。「説明・案内」については、パネルや用具を使って具体的にわかりやすく説明する様工夫し、小さい子の手を引いたり、年齢に合わせた体験ポイントまで案内したりと丁寧にやさしく接することができました。「広告」については、用意した500枚のチラシがなくなるほど、大きな声で元気よく声をかけたり、イオンモール中を歩きチラシを配るなどして、体験会の紹介をしました。また、メンバーそれぞれの役割に責任をもって「〇〇のプロ」と呼べるぐらいにテキパキ運営することができました。

体験会を終えて、メンバーから、もっと大人でも参加できるということを全面に出す必要があった、今回は、女性や年配の方の参加が少なく感じ、体験会の場所や日時を検討するなど、参加してもらおう工夫が必要、また、体験した私たちや実際に競技をしている方々が、いろいろなところで競技を周知していく必要がある等の意見が出ました。



運営の様子

## 第7回 体験会のまとめ・マイスポーツを探す方法の検討（令和2年1月12日）

会場：滋賀県庁(大津市)

### ◎グループワーク1

「体験会運営のまとめ」を行いました。①工夫できたことやうまくいったこと、②難しかったことや困ったこと、③お客様の反応や様子について、④体験会をするときのメリットとデメリットについて、⑤体験会を運営するときのポイントについて、それぞれメンバーの感想や分析を交えてまとめました。今後、競技体験会を運営する市町や各競技団体のみなさんにとって少しでも参考にしてもらえればと思います。



グループワーク1の様子

### ◎グループワーク2

「マイスポーツを探す方法についての検討」では、『どうしたら県民のみなさんがマイスポーツを見つけることができるか』というテーマで、スポーツを【する】・【見る】・【支える】の3つの観点から、それぞれについて話し合いました。各観点について、個人の考えを出した後、グループのキーワードとしてまとめました。その後、グループでまとめたキーワードを報告し、メンバー全員で共有しました。さらに、共有したものの中で重複しているキーワードをメンバー全員の意見として、まとめました。



グループワーク2の様子

その結果、【する】では「楽しみ」と「関わり」、【みる】では「観戦」と「発見」、【支える】では「ボランティア・運営・裏方」と「伝える」となりました。その後、それぞれのキーワードについて、どんなアプローチの方法や課題解決の方法があるのか、課題はどのようなことが考えられるかについて、より具体的にそれぞれのグループで検討し、メンバー全員の考えとしてまとめました。

## 第8回 活動報告会に向けての準備

(令和2年2月9日)

会場：滋賀県庁(大津市)

### ◎活動のまとめ

これまでの活動の振り返りや、「マイスポーツを見つける6カ条」の検討を行いました。そして、最後の活動報告会・解団式に向けての原稿確認を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になりました。  
 提言書の提出をもって、活動報告会の代わりにになりました。

◎提言書の提出

これまでの活動の振り返りを行い、メンバーで検討した「体験会運営の心得」と「マイスポーツを見つける6カ条」について、開催準備委員会に報告する提言書の作成をもって活動報告会にかえました。

<メンバーからの提言>

★体験会運営の心得★

最初に、スポーツ体験会運営の経験をもとに、メンバーで体験会の心得としてまとめましたので、紹介します。

**体験会運営の心得**

これから体験会をする市町や競技団体のみなさまへ

**①説明**  
 本物の用具、写真を使うなど、視覚的にわかりやすい説明がよい。

**②宣伝**  
 SNSやチラシなどで、事前に告知しておく。

**③体験会の場所**  
 年齢により集まる場所が違う。  
 多くの場所で、体験会を複数回行うとよい。

**④ルール**  
 年齢等に合わせて体験用のルールがあるとよい。



「体験会をするときの心得」、一つ目は、わかりやすい説明です。本物の競技用具を使用したり、絵や写真で視覚的にわかりやすくするとルールなどを覚えてもらいやすいと考えます。また、小さな子どもや年配の方にもわかる簡単な説明ができると良いと思います。二つ目は、宣伝です。SNSやチラシ、広報誌などを使い、体験会までに多くの方に知ってもらうことができれば、参加していただく方が増えると考えます。三つ目は、体験会を開催する場所です。

年齢によって集まる場所が変わります。例えば、年配の方は各地域の商店街、家族連れは公園やショッピングモール等に多く集まっていると思われるので、そのような場所で年代に合わせた体験会が行いやすいと考えます。四つ目は、ルールの工夫です。年齢によってできないこともあり、どんな人にも体験してもらえるルールの工夫が大切だと考えます。以上が体験会運営の心得になります。

次に、スポーツ体験会の運営をとおして、私たちが学んだことを報告します。

「体験会で工夫できたことやうまくいったこと」については、誰にでもわかる言葉で説明できたこと、デモンストレーションを行い、気軽に参加しやすい雰囲気をつくれたこと、さらに、担当以外の忙しい仕事を手伝うといった臨機応変な対応ができたことが良かったと思います。

「難しかったこと、困ったこと」については、年配の方に声をかける、チラシを渡す、小さい子どもにわかる言葉を選ぶといったことなどで、特に、お客さんが体験で失敗したときの対応や、お客さんのいない時間帯の対応については、メンバーも苦戦していました。

「お客さんの反応や様子」については、家族全員で体験をされた方、どうしたらうまくいくのかと質問してくださる方、何回も挑戦される方、体験会の種目を始めたいと考えていらっしゃる方など、多くの方に楽しく体験いただいていると感じました。反対に、用具の使い方や体験用ルールが難しい競技もあったように感じました。

体験会の良いところ
①新しいスポーツを知ってもらったり、興味を持ってもらえる。
②スポーツをやってみようと思ってもらえる。
③幅広い年代の方に体験してもらえる。
④運営する側は、多くの人と関わり、直接魅力を伝えることができる。

体験会をするときに注意すること
①安全面、衛生面での対策
②役割分担
③わかりやすい説明
④たくさんお客さんが来た時の対応



「体験会の良いところ」は、新しいスポーツを知ってもらったり、興味を持ってもらえること、スポーツをやってみようと思ってもらえること、幅広い年代の方に体験してもらえることがあります。さらに多くの人と関わることで、競技の魅力について直接伝えることができ、普及にもつながっていくものだと考えます。

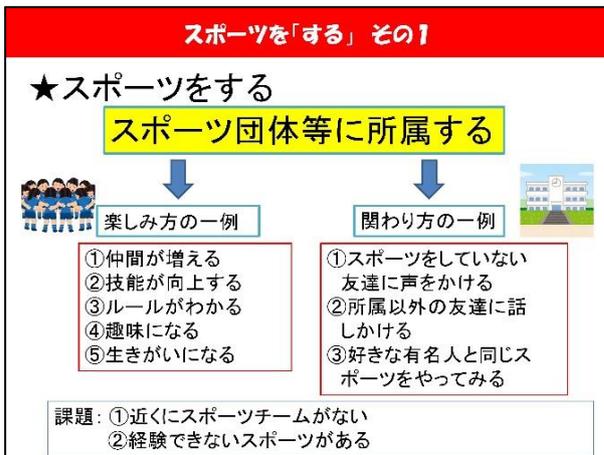
「体験会をするときに注意すること」は、参加者や周囲の安全面の確保、競技用具などの衛生面の対策、スムーズに運営できる役割分担をしておくこと、わかりやすい説明をすること、待ち時間をつくらないことに気をつけたら良いと考えます。

ここまでが、私たちが体験会を通して学んだこととなります。

## ★マイスポーツを見つける6カ条★

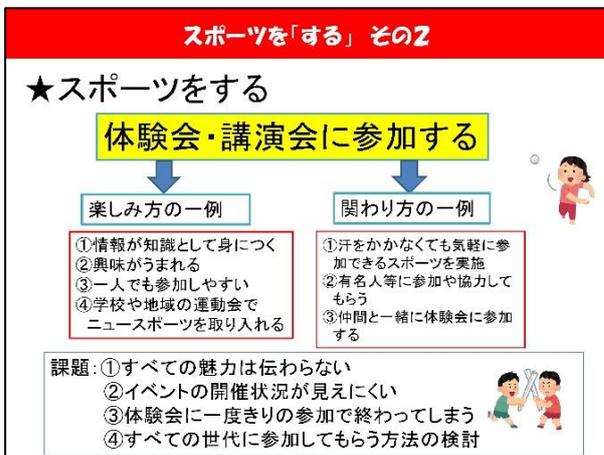
4つの競技と体験会を経験してきた私達ですが、どの競技も楽しく、もっともっとみなさんにスポーツに関わってほしい、生涯にわたってスポーツにふれてほしいと考えました。そこで、スポーツを「する」「見る」「支える」という視点から、それぞれ、どの様なアプローチの仕方があるのかについて、私たちになりに具体的に検討しましたので、報告します。

はじめに、スポーツを「する」についてです。アプローチの仕方の一つ目は、**スポーツ団体等に所属すること**です。スポーツ団体等に所属することで同じスポーツをする仲間が増える、体力や技能が向上する、競技の特性やルールを深く知ることができるといった楽



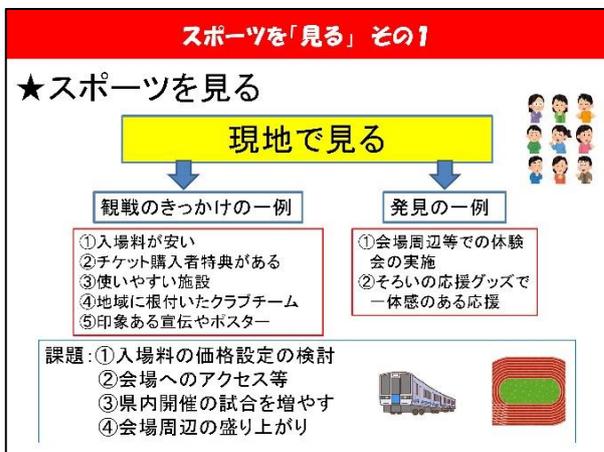
しみ方があると考えます。また、スポーツが趣味になることで、生きがいや健康づくりにつながると考えます。さらに、スポーツをしていない友達に声をかける、所属以外の友達に話しかける、好きな有名人と同じスポーツをやってみることから始めることができると考えます。課題は、住んでいる地域にスポーツチームがなければ参加できないこと、地域や学校

では経験できないスポーツも多くあることだと考えました。



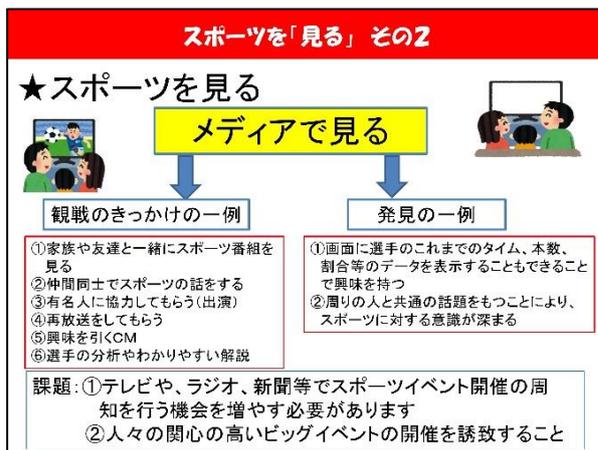
二つ目は、**体験会や講演会に参加すること**です。参加すると情報や知識を得て、興味関心が生まれる、また一人でも参加できる、地域や学校でニュースポーツができるといった楽しみ方があると考えます。さらに、有名人が体験会や講演会に協力する、仲間と一緒に体験会に参加すると考えます。課題は、体験会だけではスポーツの魅力が十分に伝えられないこと、体験会の開催状況がわからないこと、一度きりの参加で終わってしまうことが予想されます。さらに、全ての世代の方々に体験会に参加してもらえる手段の検討が必要になります。

とを考えます。課題は、体験会だけではスポーツの魅力が十分に伝えられないこと、体験会の開催状況がわからないこと、一度きりの参加で終わってしまうことが予想されます。さらに、全ての世代の方々に体験会に参加してもらえる手段の検討が必要になります。



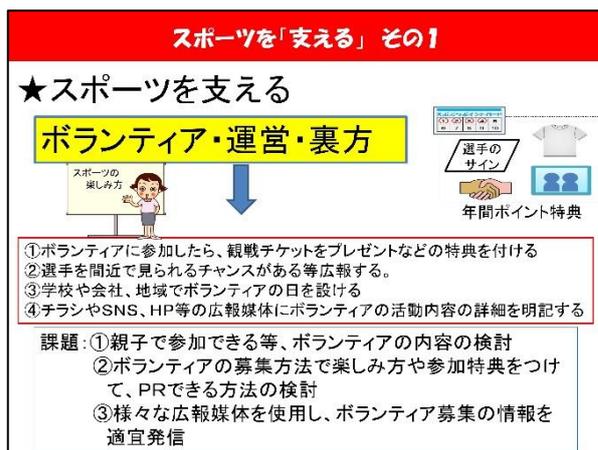
次に、スポーツを「見る」についてです。アプローチの仕方の一つ目として**現地で見る**ことです。入場料金やチケットを安くする、チケット購入者に特典がある、誰もが使いやすい施設やバリアフリーが整っている施設がある、地域に根付いたクラブチームがある、インパクトがある宣伝やポスターを見ることで、現地でスポーツを見たいと思う人が増えると

考えます。また、会場周辺で体験会があるとスポーツにふれるきっかけになること、そろいのグッズで一体感のある応援をすることで面白さを見つけることができると考えます。課題は、入場料金や観戦料金の価格設定の検討、会場駐車場の広さやアクセスの整備、県内開催の試合を増やすこと、会場周辺を屋台やイベントなどで盛り上げる必要があると考えます。



二つ目は、メディアで見ることです。家族や友達と一緒にテレビでスポーツ番組を見ること、仲間同士でスポーツの話をする、有名人にスポーツ番組に出演してもらうこと、白熱した試合や注目する試合の再放送があること、興味を引くCMがあること、選手やチームの動きを分析したわかりやすい解説があると、観戦する人が増えると考えます。またテ

レビでは、画面に選手の成績等、様々なデータを表示することができるため、周りの人と共通の話題をもちやすくなりスポーツへの興味がわいたり、面白さを発見しやすくなると考えます。課題は、テレビやラジオ、新聞等でスポーツイベント開催の周知を行う必要があります。また、人々の関心の高いビッグイベントの開催を誘致することが必要だと考えます。



次に、スポーツを「支える」についてです。アプローチの仕方の一つ目としては、ボランティア、運営、裏方の立場としてスポーツに関わることです。ボランティアに参加したら、観戦チケットをプレゼントするなどの特典を付ける、一流選手を間近で見られるチャンスがあることなどを広報する、学校や会社、地域でボランティアの日を設けるなどして、普段から

奉仕の意識を高める、チラシやSNS、HPなどにボランティアの活動内容の詳細を明記することで、興味を示す人が増えるのではないかと考えます。課題は、ボランティアの内容の検討が必要だと考えます。また、募集方法の中に楽しみ方を紹介したり、参加特典

をつけるなどPRする方法を検討することが必要となります。さらに、SNSやチラシなどを活用しながら、ボランティア募集の情報を常に発信することが大切だと考えます。

**スポーツを「支える」その2**

**★スポーツを支える**

**伝える(知名度を上げる)**



①スポーツの裏方の仕事をされている方、ボランティア経験者にインタビューをテレビで放送する  
 ②大会前にSNS広告、新聞などで見どころ放送する  
 ③YouTube、TV、イベントなどで、選手が直接競技の魅力を伝える  
 ④面白くわかりやすい実況等により、伝わる工夫

課題:①CM、メディアの使用料金等の費用面での検討  
 ②全ての人に情報が伝わる手段の検討

動画  
選手

二つ目は、伝える（知名度を上げる）ことです。スポーツの裏方の仕事や、実際にボランティアに参加された方のインタビューをメディアで放送すれば、活動の面白さが発信できると考えます。また、大会前にSNS、広告、新聞などで、スポーツの見どころを発信したり、スポーツ選手がYouTube、TV、イベントなどで直接競技の魅力を伝えるとさらにスポ

ーツが面白く伝わると考えます。課題は、CM、メディアの使用料金等が高額になるため費用面での検討が必要だと考えます。また、全ての人にスポーツの情報が伝わる手段を検討しなければならないと考えます。

最後に、これまでの検討結果のまとめとして、「マイスポーツを見つける6カ条」と題し、整理しました。

**マイスポーツを見つける6カ条！**

<b>する 見る 支える</b>	1. 部活動・クラブチームに入りスポーツをしよう！
	2. とりあえず、一回やってみよう！ ～体験会・スポーツイベント～
	3. レッツゴー 試合会場！ ～現地で熱を感じよう～
	4. テレビでスポーツを見よう！
	5. 『ONE TEAM！』 ～スポーツをみんなで支えよう～
	6. あなたの言葉で伝えてみよう！ ～#スポーツ～

一つめは、「部活動・クラブチームに入りスポーツをしよう！」

二つめは、「とりあえず、一回やってみよう！～体験会・スポーツイベント～」

三つめは、「レッツゴー 試合会場！～現地で熱を感じよう～」

四つ目は、「テレビでスポーツを見てみよう！」

五つ目は、「『ONE TEAM!』～スポーツをみんなで支えよう～」

六つ目は、「あなたの言葉で伝えてみよう！～#スポーツ～」

是非参考にさせていただければと思います。

今回のテーマは、「マイスポーツを探せ!!」ということで、そのための「きっかけ」を提案しましたが、内容にもあります様に、それぞれに課題があります。課題克服のためには、行政だけでなく企業や競技団体などたくさんの皆さんの力が必要です。スポーツを通じて、滋賀県がもっと元気で健康になるよう、みんなでがんばっていただければと思います。よろしくをお願いします。

## ◎活動終えて

### 1 委員代表者 中学校3年 土肥 香凜さん

ジュニア・ユースチーム第6期生を代表し、活動を終えた今の思いを述べたいと思います。私がこの活動に参加したきっかけは、学校で配られたパンフレットです。私はその頃、部活中にケガをしていて、障害の有無に関係なくできるパラスポーツに興味をもち、活動に応募しました。

活動の前半で行った競技体験と取材活動では、普段接することのない選手の方や、関係者の方から、競技への思いや、競技者としての意見を聞くことができました。また、自分が体験することで、今まで経験したことがなかったスポーツの楽しさを感じました。

e スポーツやパラスポーツ等の競技体験会では、「初めての運営」という体験に戸惑いながらも、自分が感じたスポーツの魅力を、人に伝える楽しさを知ることができました。また、世代が違う人へのアピールの仕方についてなど、人を引き付けるための工夫の大切さを学びました。

後半のまとめや話し合い活動では、自分とは違う意見や、メンバーの色々なアイデアを聞くことで、自分の考えを深めることができました。また、今回の活動の中で、高校生や大学生の頼もしさや、小学生の積極性を感じました。スポーツについて知るだけでなく、たくさんの方々と交流を深めるいい機会になったと思います。

今後も今回の活動で得た経験を活かし、周りの人にスポーツの楽しさを伝え、国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会に貢献していきたいと思います。

最後になりましたが、取材や体験活動をさせていただいた皆さん、私たちをサポートしていただいた準備委員会の皆さん、そして、一緒に活動してくれた第6期生のメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。

## 2 認定書の授与

解団式で授与する予定だった「国スポ・障スポフレンド\*」認定書を事務局より送付します。

\*国スポ・障スポフレンドとは、今後の大会準備に関連する活動への参画など、大会サポーターとして関わりを継続してもらうことを期待して認定。2024年には国スポの総合開会式に招待する予定。

## さいごに

今回、私たちは「マイスポーツを探せ!!」のテーマのもと、様々な活動を行ってきました。5つの競技体験と関係者への取材活動、スポーツ体験会の運営体験といった普段の学校生活ではできない体験をさせていただきました。また、その体験をもとに、メンバー全員で意見を出し合い、その成果をまとめることができました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動報告会が中止され、皆さんに披露できなかったことを残念に思います。私たちがまとめた、「体験会運営の心得」や「マイスポーツを見つける6カ条」を一人でも多くの皆さんに目を通していただけるよう、私たち自身が情報の発信源となり、今後もPRしていきたいと思えます。

これまでの活動を通して、一つのことを成し遂げた達成感、人と人とのつながりの大切さなど多くのことを学ぶことができました。再びこのメンバーで集まり、4年後の国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会に向けて何か協力できればと思います。

ジュニア・ユースチーム第6期生の活動にご協力いただきました関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

< ジュニア・ユースチーム 第6期生メンバー >

No.	氏名	学	年
1	井上 智可良	小	5
2	遠藤 百笑	小	5
3	奥村 瑛太	小	5
4	嶋原 咲衿	小	5
5	鈴村 虹湖	小	5
6	瀧川 心音	小	5
7	田中 颯馬	小	5
8	谷戸 茅優	小	5
9	馬場 敦広	小	5
10	福塚 日陽	小	5
11	赤淵 実蘭	小	6
12	小畑 菜央	小	6
13	片山 由葵	小	6
14	小林 美結	小	6
15	竹川 竜之介	小	6
16	田中 彩翔	小	6
17	橋 真菜	小	6
18	大内山 皓一	中	1

No.	氏名	学	年
19	片山 風花	中	1
20	北脇 にこ	中	1
21	矢木 菜奈未	中	1
22	饗場 千尋	中	2
23	古株 耀喜	中	2
24	濱野 美和	中	2
25	林 正道	中	2
26	本田 真道	中	2
27	岡本 樹	中	3
28	土肥 香凜	中	3
29	望月 彩花	高	1
30	高見 柚月	高	2
31	三橋 藍	高	2
32	堀 奈津子	高	3
33	福定 佑斗	大	1
34	押川 鈴奈	大	3
35	木村 天音	大	3
36	渡邊 十那海	大	3

湖国の感動 未来へつなぐ



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ  
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2024



第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

滋賀県開催準備委員会事務局

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

滋賀県 文化スポーツ部国スポ・障スポ大会課内

TEL 077-528-3321

FAX 077-528-4832